

あびの文化

発行人 大洋
美崎子市
我孫子山
250-23
04(7182)
0861

あけましておめでとうございます

会長 美崎 大洋

嘉納治五郎銅像建立実現に一層のご協力を

平素は当会の活動に格別のご協力をいただきありがとうございます。

会員の皆様、新しい年をどのように迎えられましたでしょうか？

昨年も様々な出来事がありました。

6月、米国のトランプ大統領と北朝鮮金正恩朝鮮労働党委員長が、シンガポールで史上初となる米朝首脳会談を行い、世界の緊張緩和が進みました。

国内では7月の西日本豪雨で220人を超える死者を出し、9月の北海道胆振地方で起きた最大震度7の地震では、道内全域で停電が発生する異常事態になり、完全復旧に1週間以上かかるという、いわゆる「ブラックアウト」状態に追い込まれました。また財務省による公文書の改ざんなども発覚し、各種世論調査で一時、内閣支持率は急落しました。

明るい話題としては平昌五輪で日本は冬季最多13個のメダルを獲得、テニスの大坂なおみが全米オープン優勝し、四大大会で日本人初の快挙を達成しました。本庶佑氏がノーベル生理学・医学賞を受賞したことも日本人として誇らしい話題でした。

当会の活動に目を転じますと、昨年春から「嘉納治五郎銅像建立計画」を発表しそのための募金活動を開始しました。2020年の実現を目指し、市民活動(運動)としてPRを進めて来ましたが、我孫子市民への浸透は今ひとつの感があります。現在、目標額の2割程度の達成率です。今年には正に「正念場の年」となります。何としても実現するため、周辺へのPRなど、会員の皆様のなご協力をお願いいたします。

「嘉納治五郎から学ぶ」連続講座

2020年を目前にして、嘉納治五郎の功績には高い関心が寄せられている。明治維新を経て日本が大きく変化していた時代にあつて、嘉納は教育とスポーツを通して国際社会に貢献できる人材の育成に取り組んだ。この連続講座では、嘉納が残した先験的な思想や哲学、業績などをそれぞれの専門家の視点から紹介いただく。

「嘉納治五郎から学ぶ」連続講座

第1回 2019 2・16 (14時~18時)
嘉納治五郎から「精神」を学ぶ
講師：村田直樹氏 (講道館)

第2回 2019 2・23 (14時~18時)
嘉納治五郎から「ジェンダー」を学ぶ
講師：山口香氏 (筑波大学)

第3回 2019 3・2 (14時~18時)
嘉納治五郎から「教育」を学ぶ
講師：和田孫博氏 (灘中学校・高等学校)

第4回 2019 3・9 (14時~18時)
嘉納治五郎から「平和」を学ぶ
講師：永木耕介氏 (法政大学)

参加無料
※各回開場13:30~

会場：アビイホール(アビイクオーレ3階)我孫子駅南口徒歩1分

主催 嘉納治五郎記念国際スポーツ・交流センター
共催 我孫子市教育委員会

協力 我孫子の文化を守る会

会場 アビイホール(アビイクオーレ3階)我孫子駅南口徒歩1分

第1回 2月16日(土)講師 村田直樹氏(講道館)

第2回 2月23日(土)講師 山口香氏(筑波大学)

第3回 3月2日(土)講師 和田孫博氏(灘中学校・高等学校)

第4回 3月9日(土)講師 永木耕介氏(法政大学)

教授 「嘉納治五郎から「平和」を学ぶ」

教授 「嘉納治五郎から「教育」を学ぶ」

教授 「嘉納治五郎から「ジェンダー」を学ぶ」

教授 「嘉納治五郎から「精神」を学ぶ」

教授 「嘉納治五郎から「平和」を学ぶ」

教授 「嘉納治五郎から「教育」を学ぶ」

申し込み Eメールまたはファクスで
件名「嘉納治五郎連続講座」
参加する全員の氏名、参加希望日、当日連絡がつく

電話番号を明記のうえ、(一財)嘉納治五郎記念国際スポーツ研究・交流センター FAX 03-5790-9657
メール register@100yearLegacy.org
問い合わせ 我孫子市教育委員会文化・スポーツ課
電話 04-7185-1583

我孫子北まちづくり協議会と協働イベント実施

11月10日(土)、並木本館ホールにて「嘉納治五郎とオリンピックと我孫子」をテーマに「講演会」と「まち歩き」を実施した。当会から伊藤一男副会長が講演、その後、我孫子駅南口周辺の嘉納治五郎関係の史跡を探訪した。

第11回ベイ・東葛飾エリア

観光ボランティアガイド交流会に参加

昨年、我孫子市のガイド3団体が主催開催した「ベイ・東葛飾エリア観光ガイド交流会」が、今年11月27日(火)、流山市文化会館及び中央公民館にて流山市ガイド団体の主催で開催され16団体が参加した。当会からも美崎会長をはじめ6名の役員が参加した。当日は先ず市民会館ホールで式典が行われ、開催団体代表の開会挨拶に続き、井崎流山市市長の歓迎挨拶、壇上に並んだ参加団体代表者の紹介などの後、併設の中央公民館の会議室に移り、テーマ別交流会が行なわれた。内容は①交流会のあるべき姿②お客様を増やす智恵③ガイドの老齢化と増員対策④ガイド時の安全対策、それぞれのグループに分かれ討議、情報交換した。終了後、再び中央公民館にて①東葛お囃子愛好会による郷土芸能の披露と②流山市観光情報ビデオが上映された。

その後、三つのコースに分かれ流山市内史跡巡りが実施された。内容豊富で充実した交流会であった。

平成30年度統一クリーン・デイに参加

12月2日(日)美しい手賀沼を愛する市民の連合会(美手連、当会も所属)主催の「手賀沼統一クリーン・デイ」(手賀沼ふれあい清掃)に参加しました。ご協力ありがとうございました。

もう一つの嘉納治五郎先生顕彰活動
—ひ孫 坪内園子さんとの出会いと交流(最終回)

平林 清江

4、美崎会長と坪内園子さんとのメール通信が始まる
美崎会長と坪内園子さんとの初面談は、10月12日、我孫子にて、と決まったが、10月初めになって、お二人のスケジュールが合わなくなり、しばらくの間様子を見るということになった。

そこで、筆者は、お二人にメールによる情報交換をお勧めした。「我孫子の文化を守る会」と「嘉納治五郎先生顕彰活動」について予備知識を得た上で、あらためて面談の日を調整することにする。

実りある会話となることを願いつつ、両者間のメール通信は開始されることになった。

また、この間、筆者は、我孫子における嘉納治五郎先生の関連記事が掲載された資料、「楚人冠と湖畔吟社」・「あびこ歴史散歩」(いずれも我孫子市教育委員会発行)を、坪内さんに送る。

10月28日、「二週続けて週末、台風襲来。前回の台風が伊勢湾台風並とのことだったので、伊勢湾台風(注10)の後、手賀沼の水が湖畔の田んぼを飲み込んだことなどを思い出した。半世紀以上も前の事である」とのメールが、坪内さんから送られる。

このメールを受け、機会があれば、坪内さんからは50年が経過しても、なお鮮やかに回想される、我孫子天神山での暮らしの中のシーン(注11)などを、ゆっくり伺ってみたいと思った。

12月1日

この日、筆者は、世田谷文学館友の会開催の文学散歩「ことし納めの文学散歩・新設漱石山房記念館と周辺の漱石故地を訪ねる」に参加。

新宿区立漱石山房記念館にて坪内さんに会い、美崎会長からの伝言「嘉納治五郎先生の銅像を作製し、天神山緑地に建立することについて、我孫子市の了解

を得た」ことを伝える。坪内さんも安心されたご様子であった。

12月吉日

我孫子の文化を守る会会長 美崎大洋名にて、「臨時総会開催のご案内」が届く。
平成30年1月7日(日) 15時より
我孫子北近隣センター
議案「嘉納治五郎銅像建立の件」

筆者は、「建立賛成」に印を付して、ハガキ発送。

平成30(2018)年1月12日

美崎会長からメールが送信される。

本年1月7日の臨時総会で正式に「嘉納治五郎銅像建立」が決まった。これで公にも声を大にしてPRできるということになった。柔道関係、スポーツ、教育関係などにPRすることになると思う。教育委員会を中心に、我孫子市はかなり積極的な対応をしてくれている。教育委員会の辻さんと講道館、台東区立朝倉彫塑館(昭和61年に台東区に移管、朝倉文夫作製の嘉納治五郎の像の原型を所有)にもご挨拶に行く予定である。

坪内園子さんとの面談も早めに実現させ、以上の経過報告をしたいと考えている。

平成30(2018)4月1日

嘉納治五郎先生銅像建立のための寄附金募集が開始される。募集期間は、平成30年4月1日〜平成31年9月30日

平成30(2018)年4月14日

世田谷文学館友の会の総会及び記念講演が行われた4月14日(土)、池澤夏樹氏の講演「文学で知る古代日本人の性格」を坪内さんと聴講。

その後美崎会長との面談日について、相談。5月中に実施することを決める。

平成30(2018)年5月5日

我孫子の文化を守る会の会報誌(第163号、平

成30・5・1)と共に、ちらし「我孫子の大事な人 嘉納治五郎 知ってますか?」(嘉納治五郎銅像建立委員会)が送られる。

5、美崎会長と坪内園子さんとの面談(第一回)が実現
「我孫子の文化を守る会」による文化講演会(注12)が、本年5月19日(土)に開催されるのに先立ち、再度、美崎会長と坪内さんとの面談日を調整し、その日を5月11日(金)とする。

平成30(2018)年5月11日(金)・晴天

午後二時、美崎会長・坪内さん・筆者、我孫子駅南口にて待ち合わせ。

美崎会長には、19日の文化講演会を目前にしてのお忙しい中、マイカーで、市内の嘉納治五郎先生ゆかりの場所をめぐっていただく。

まず、天神山緑地(嘉納別荘跡)の他、嘉納治五郎先生揮毫の書額を所蔵する、次の3箇所(我孫子第一小学校、三樹荘、我孫子市本庁舎市長室)、ならびに石碑のある大光寺を訪問(注13)した。

いずれも撮影が許可され、坪内園子さん撮影。その他、美崎会長、坪内さん、筆者の記念のスナップ写真など。今回は、嘉納後楽農園跡の見学は割愛し、次回のお楽しみとする。

武者小路実篤邸跡を見学。我孫子駅南口にて、16:30解散。

この後、小学校時代、高台の天神山に暮らしながら、富士山を見た記憶が無いとのことなので、夕方、手賀沼の向こうに見えるはずの黒富士(注14)を期待して、けやきプラザ11階に登ったが、遂に見えず。これもまた、次回の、我孫子訪問時に期することとした。

坪内さんからは、「長く我孫子を楽しみたい」とのお言葉をいただく。

17:00解散。以上

【注記】

(注10)伊勢湾台風：昭和34(1959)年9月26日、紀伊半島に上陸した台風。

「我孫子市史」近現代篇(我孫子市教育委員会平成16年3月)の中に、伊勢湾台風による手賀沼の水害の記事を探したが、見つかることは出来なかった。

(注11)暮らしの中のシーン。例えば、美崎会長と坪内さんとの間で交わされたメール(2018・4・18)の中に、次のような内容のものがある。

「お尋ねの屋敷の写真ですが、我が家にはありません。本当に残念な事です。暗いけれども広くて立派な玄関や、フスマにかかれた竹添進一郎(漢学者・治五郎の岳父)の書など、頭には残っているのですが、まだ家にカメラの無い時代でしたから映像は残っていません」。

現在、文字資料や映像として残っていないが、実際に嘉納別荘に住んだ人々の記憶を記録することで、後世に残し伝えることが可能となる。

(注12)文化講演会(第38回記念文化講演会)：演題「嘉納治五郎とオリンピックブーム」――多様性を重視した国際人――

講師 真田久氏 筑波大学体育系教授、つくば国際スポーツアカデミー長、東京2020大会組織委員会参与

場所 市民プラザホール

我孫子市教育委員会・我孫子の文化を守る会共催、同時開催「我孫子と嘉納治五郎展(平成30年5月19日〜22日・我孫子市民プラザ)」(注13)嘉納治五郎先生揮毫の書額、石碑：我孫子第一小学校：「力必達」・「以人為鏡」

副校長先生から丁寧なご対応をいただき。

「ふるさと我孫子の先人たち」(平成28年3月改訂版)を各自1部ずつ頂戴する。

大光寺：「杉山英先生之碑」

寺内幼稚園の保育士さんたちと会話。

三樹荘：「三樹荘」

故村山祥峰先生の次女で後継者の方から、三樹荘の解説など親切なご対応。

市長室：「擇道竭力」

秘書広報課、快くご対応。

*嘉納先生の雅号についての解説は、展示資料「我孫子と嘉納治五郎展(我孫子市教育委員会発行)」の中に記載がある。

(注14)黒富士の行動は、柳宗悦の「我孫子から」(百権)第十二号四月号・大正十年四月)の中にある、次の箇所を踏まえている。

「七年近くもゐた此我孫子に対して、今更愛着を感じてゐる。……」

夕方日が沈みかけて、空が紅の色に染まる頃、沼越しに富士山を幾度見たか分らない。「入日が綺麗なこと」、「富士が素敵だ!」、ともかく一家のうちで先に見つけたものがこう叫ぶ。よく志賀の家の窓から、首をのびして大人から小供から下女まで、西の空を眺めたものだ。……」

窓越しに吾々は沼を横切つてゆく渡しをいつも見る事が出来る。静かな日などは、それが岸から岸まで水の篠(すじ)を残してゆく。……」(丁)

あびこだより 5号

放談クラブへのご案内

① 嘉納治五郎の我孫子学園構想

② 平将門の王城は我孫子市中里

戸田 七支

平成31年最初で最後の放談クラブの講師を務めることとなり、大いに責任を感じます。内容は嘉納治五郎と平将門です。いずれも語りつくされたテーマですが、まだまだ不明な事柄が多く存在しているのではないかと。この辺の事情を「放談クラブ」と言う場を借りて自由に放言し、皆様の「ご批判を仰ぎたい」と思っています。

嘉納治五郎についてはすでに多くの人によつて語られているが、我孫子に於ける嘉納治五郎は他所に於けるそれとは一味違った存在であった。確証がないという事で伏せられているが、そこにこそ本当の姿が隠されているのではないかと。具体的に言えば幻の学園設立構想である。教育者としての嘉納治五郎は良く知られているが、それは学校長としての軍事体制下に於

ける管理教育者という立場であった。恐らく本人が考えていた教育とは遠く離れていたものに違いない。

65歳、東京高師名誉教授となり、教育の第一線から退いた嘉納一家は終の棲家として我孫子の地に移り住んだ。ここで嘉納は生涯の夢である理想の教育を実現しようとする。全寮制の学園設立構想を持った。2万坪余りに及ぶ土地の所有が明らかに示しているのではないかと。幻の東京オリンピック、若し昭和15年に東京で開催されていたら翌年16年に太平洋戦争の開戦はあり得たであろうか。この時期、日本の首相になって欲しい人の一番手ではなかったか。明治以降、世界に一番影響を与えた日本人のナンバーワンはこの人ではなかったか。等々話し合いたいことたくさんあります。

もうひとつは平将門である。史実と言うものがなく伝説という不確実なものを基準にして判断をしなればならない。我孫子の近辺に多く存在する将門伝説、それは全て将門の本拠地が我孫子であることを示していること主張してきた。しかし王城をどこに建て、何処に住んでいた(居館)かには言及し得なかった。昨年の8月この謎を解明することに成功した。「将門記」にこんな記述がある「王城を亭南に建つべし。兼て横橋(ふなばし)を以つて号して京の山崎と為す。相馬の郡大井の津を以つて京の大津と為(七)む。」と書かれている。将門亭、王城、横橋、大井の津がどこに当てはまるであろうか?

将門亭(居館)は湖北地区公民館(我孫子市中里81番地3号)、王城は相馬郡衛正倉遺跡(我孫子市中里659番地3号)、横橋はその真下、大井の津は柏市大井(〒277-0902)これが連立方程式の解である。すべてが将門記の記述通りに符合している。将門亭とされた所は正に伝説の中心地であり、当然の結果と言えよう。しかしながらこうした見方は過去に無かつたものであり、自分本位の考え方が多分に入っており、広く皆様方のご批判を仰ぎたい。

今回の放談クラブは嘉納治五郎と平将門の2本立て興行となりました。皆様方との楽しい話し合いの場を提供できればこれ以上楽しいことはありません。

第132回史跡文学散歩報告

—「伝通院コース」—

稲葉 義行

今回の史跡文学散歩は、前回九月実施予定の第三十一回史跡文学散歩「西浅草と講道館発症の地を訪ねる」が荒天のため中止となったため、久しぶりの史跡散歩となりました。当日は、越岡講師以下十六名が九時に我孫子駅に集り、秋晴れの下、出発しました。

まず、千代田線新御茶ノ水で下車し、お茶の水橋のたもとにあるお茶の水の地名の由来の碑を視察しました。「再校江戸砂子」によると、「慶長年間、神田山の麓に高林寺という禅寺があった。ある時、この庭から良い水が湧き出るので、二代將軍秀忠公に差し上げたところ、お茶に用いられ「大変良い水である」とお褒めの言葉を戴いた。それからこの寺をお茶の水高林寺と呼ばれ、この辺りをお茶の水というようになった。」ということです。

次に、順天堂大学の横にある東京都水道歴史館に行きました。こゝは、「江戸—東京発展の流れを創った水道四〇〇年」として、平成七年に開館し大切な水道の歴史を展示しています。二階は江戸時代の上水の展示で玉川上水を開いた玉川兄弟の努力と苦心をアニメーションと人形劇で紹介しています。また、江戸時代の長屋の上水井戸の再現、木樋や継手の組方・構造など江戸時代の技術力を紹介しています。一階は近現代の水道の展示で、「蛇口」の語源と言われている水の出口が龍をかたどっている「蛇体鉄柱式共用栓」(実物)の展示、近代水道の幕開けと共に使用されるようになった铸铁管の変遷、牛馬用・犬猫用・人間用と三つの水飲み場が設けられた画期的な水道栓である馬水槽や水道の戦後復興の経過が展示されています。屋上には昭和六十年代に発掘された上水遺跡「神田上水石樋」の一部を移築・復原してあります。

歴史館から本郷の老岐坂を下り講道館に行きました。当日は休日のため、中には入れませんでしたので、講道館入口にある嘉納治五郎像前で先生の事績の説明を越岡講師より説明を受け文京シビックセンターに

移動しました。

文京シビックセンター

は、区民施設とホール、区役所などの公共機関

からなる総合施設で、当日は快晴で、二十五階の

展望ラウンジからは富士山・秩父連邦・筑波山・東京スカイツリーが望めました。

昼食後、礪川公園内にある春日局之像は、春日局が乳母として仕えた三代將軍家光より拝領した土地に因み春日の地名になり、菩提寺も湯島麟祥院にあることから、平成元年この地に建立されました。礪川公園は、昭和四十年代学生運動の最盛期には、全学連が、連日、礪川公園に集結、街に繰り出し、デモ行進が繰り広げられていました。私が消防に入った頃、情報収集のため若手が公園まで派遣されました。制服や背広姿では吊し上げられるのでラフな格好で行くように指示され戦々恐々として、任務についていたことを思い出します。

富坂を上りきると、伝通院があります。この寺院は浄土宗無量山伝通院壽経寺といい、名僧了蒼が開いた小石川極楽水の草庵を移して寺院造営の手掛かりとしました。慶長十三年(千六百八年)には諸堂も整い学寮を設けて関東十八壇林の一つになり、將軍家から手厚い保護を受けていました。徳川家康の生母於大の方が慶長七年(一六〇二年)に亡くなると、江戸で茶毘に付し、この墓地に埋葬されました。於大の方の法号をとり「伝通院」としたとのこと。

伝通院は家康の孫で豊臣

秀頼に嫁いだ「千姫」をはじめ、將軍の子女や側室などが

眠る將軍家の菩提寺となっています。この墓地には、徳川家縁者の墓の他に、「秋刀魚の歌」で知られる詩



人・小説家の佐藤春夫、円月殺法の眠狂四郎シリーズの柴田鍊三郎、明治・大正の教育家・評論家で大正三年(一九一四年)に当時皇太子で在られた昭和天皇の東宮御学問所御用係になった杉浦重剛や文久三年(一八六三年)幕府の浪士隊(後の新撰組)を結成した、幕末の勤王の志士清河八郎等の墓があります。

伝通院を後に、安藤坂を下りる途中に、樋口一葉も門下生となっていた、歌人中島歌子の歌塾「萩の舎(はぎのや)」の跡(現在は、マンションが建っている)があり、中島歌子の説明を受けて小石川後楽園に移動しました。

小石川後楽園は、寛永六年(一六二九年)水戸徳川家の藩祖徳川頼房が中屋敷(後、上屋敷)に造ったもので、二代藩主の光圀の代に完成しています。庭園の様式は回遊式築山泉水庭園となっています。造成にあたり、光圀は明の遺臣朱舜水の意見を用い円月橋、西湖の堤(せいこのつつみ)など中国趣味豊かな庭園となっています。園名は中国の范仲淹(はんちゅうえん)「岳陽樓記」の「天下の憂いに先だつて憂い、天下の樂しみに遅れて樂しむ」から朱舜水が名づけました。庭園は国の特別史跡・特別名勝に指定されています。当日は休日のため無料の庭園ガイドの説明がありました。大泉水(中央の池を琵琶湖に見立てている)の左は江戸から京都に入る景色を模し、京都の渡月橋、清水観音堂(現在は、礎石のみ)、音羽の滝などを配し、右は木曾街道に模して景観を作っています。このように美しく作庭された庭園ではありませんが、明治維新後は明治四年(一八七一年)兵部省の造兵司の敷地となり、明治十二年(千八百七十九年)に東京砲兵工廠と改称し大砲及び砲弾を製造していた時代があったそうです。

私は、明治維新は、わが国を近代国家に導いた面で大いに評価する者であります。後楽園の様な名園を軍事施設に接収したことは、それまで培ってきた日本の文化遺産を軽視した施策を推進してきたのだと思つています。この時代の思考が現代になつても引き継がれているのではないかと考えています。

「短歌の会」に参加して

—学童疎開と初めての短歌—

納見 美恵子

昭和十九年八月、田舎のなかった私は第一回の学童疎開児童の一人として、世田谷区尾山台国民学校から、越後湯沢へ集団学童疎開をした。

サイパン島が陥落して間もないころだった。防空頭巾と水筒を十字に掛けて登下校し、家々には防空壕が義務づけられ、竹槍訓練が実施され始めていた。

当時の湯沢は、川端康成の『雪国』そのまま鄙びた温泉町だった。私たちはそれぞれの温泉宿に分宿した。私は比較的小さな「井仙」という旅館に児童十三名と若い女の先生と一緒に生活することになった。本当は町に一軒ある観光ホテルに憧れたが、後々、こじんまりした宿に割り当てられた事を幸せであつたとしみじみ思うようになった。先生のお人柄もあり、一大家族のような和やかな生活を送ることが出来たからである。

東京から各自持参した丼の身にご飯を、蓋におかずを入れ、後は味噌汁という食事は地方も東京と変わらぬ食糧事情で、ご飯も豆のいっぴい入ったものだった。温泉宿に生活していたにもかかわらず身体につく白い虱、髪の毛につく黒い虱の洗礼を受け、温かい日などは梳き櫛で髪をすき、新聞紙の上にバラバラと虱を落とし逃げる虱を追いかけて爪でつぶしたりした。それでも、「欲しがりません勝つまでは」と皆、気持ちには元気だった。

湯沢に移って間もないころ、皆で遊ぶという催しの一つとして、短歌を作つて出すようにと先生に言われた。それぞれ遊びながら、お風呂の中で、指を折りながら歌らしきものを作つた。

私は疎開に出発する日の朝、校庭で校長先生が話された、湊川へ出陣する途中の桜井の駅での楠木正成・正行親子の別れの話思い出し、

正行の心をもって疎開した私たちは何で帰ろう

という一首を出した。これが、私の作つた最初の短歌である。

夕食後、皆でわいわい鑑賞し合つたが、その折、最年少だったということもあり、先生は私の歌を褒めて下さつた。でもその後、男の子たちに、「汽車で帰ろう。電車で帰ろう」とさんざんからかわれて、嫌な思いも、それで今でも覚えていてのかも知れない。

六十歳を過ぎたころ、母たちの様子を見ていて、身体が動かなくなつても出来る事を何か始めたいと思うようになった。鉛筆一本持てば出来る……ということとで俳句・短歌・川柳など思い浮かべたが、その中で短歌を選んだのはもうほとんど忘れかけていた、十歳の時に疎開地で作つた歌への郷愁があつたのかも知れない。

六十三歳、そのように不純な動機で始めた短歌だったが、細々と続けて二十年になった。今は私の生活の大切な一本の柱となつており、短歌を仲立ちとしての友人も出来、旅行・勉強会などを楽し

み、「我孫子の文化を守る会」の「プロジェクト・短歌の会」にも入れていただき、遅まきながら地域にも愛着を持つようになった。

埋もれていた昔々の小さな種子が、思いもかけず芽を出した感じがする。

私に短歌に小さな種子を蒔いて下さつた先生は、九十五歳。今も健康である。

私の我孫子文化との接点

〜自分の原点を確認して〜

私が我孫子市に住んだのは、阪神淡路大震災が起き



た前の平成六年の年の瀬です。

次女の小学校入学を機に、松戸の建設会社の営業車に乗つて、何棟目かの現場で我孫子市寿にやつて来ました。根戸新田の辺りから急に視界が広がると、青空と手賀沼の水面の反射がとても綺麗で、手賀沼畔に植えた桜の樹木がまだ、か細かったのですが、多くの花を付けて迎えてくれたようでした。

営業マンは、ここには古墳があり、将門が闊歩した歴史ある町だと説明してくれて、歴史があつてロケーションの素晴らしさに私はすっかり心を奪われました。

引越してからは、駅前書店で手にした『The アビコ』を暫くの間毎晩読みました。特に「我孫子」の地名を探る研究の情景や議論が目の前で起きていくようにワクワクし、その後も何度も読み返しました。

実は、この冊子中のアビコの地名探しが、私の苗字のルーツ探しの発端になりました。

最近では、名前のルーツや意味を探るテレビ番組がありますが、私の場合は二十余年前にその萌芽がこの冊子にありました。長年勤めた仕事を退職する前にはインターネットを中心に、「芦崎」が付く地名が全国で六箇所あり、名字として名乗る人は北海道に多いことも調べてみました。

父の生まれが千葉県銚子市で、市内に芦崎町という一角があります。昨年、銚子市立図書館に行き、現地ですべて芦崎の苗字のルーツを調べる活動に入りました。

一方、昨年十月、「我孫子の文化を守る会」の事業の一環として手賀沼流域フォーラムの「手賀川の川巡りと木下の史跡散歩」に参加して、利根川の水運の歴史に関して、我孫子市と銚子市の繋がりが深いことを知りました。

今後は、当会の活動の中で利根水運の歴史を調べることに重点を置き、並行して「芦崎のルーツ」を知りたいと思っています。

更に、少し時間を掛けて青森県、秋田県（二か所）、富山県、大分県にある「芦崎」を訪れて、地名の由来を調べてみたいと思っています。

芦崎 敬己

我孫子の巨木・名木を訪ねる会

「樹木観察会報告」第21回

【印西市見神社・長楽寺周辺巨木】

実施日・十一月十六日(金)

稲葉 義行

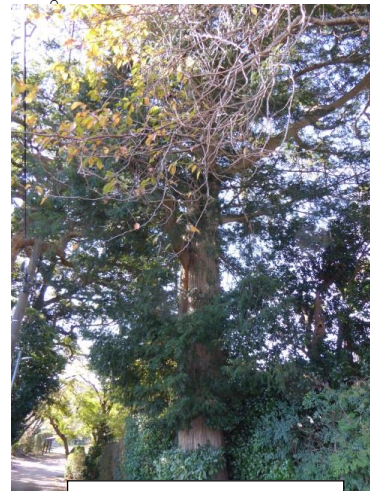
今回の観察会は、快晴の下、十名(内女性二名)で実施しました。成田線木下駅からバスに乗り、「大森坂上」で下車し、住宅や畑地が広がる中を十分程歩き「雲冷山長楽寺」につきました。この寺は、慈覚大師(円仁上人)によ



長楽寺本堂

り承和十一年(八四四年)頃、創建された天台宗の古刹です。境内にあった国宝観音堂は、昭和二五年二月に焼失しました。その後、昭和六十年から平成元年にわたり本堂の修理、観音堂の新築をしています。本堂には福寿開運の大黒天を祀っています。南側の参道を上りきり、寛文五年(一六六五年)に造られた金剛力士像がある仁王門を潜ると、右手に応安二一年に寄進され、昭和四七年九月に千葉県指定有形文化財となった梵鐘があり、正面の観音堂には千手観音が祀られています。本堂入り口には幹回り四メートルを超え、樹高二六メートル程の榎があり、東の参道は幹回り六メートルを超えるスダジイが幾本もある並木道となっています。本堂の前には幹回り四、七五メートルの銀杏があり根元一面にはたくさんの銀杏が落ちていました。本

堂裏には、椋木、榎、楠、タブノキ等何れも幹回り三メートルを超える巨木が枝を大きく張つて聳えていました。地内の墓地には第



長楽寺入口のカヤノキ

二四代横綱、鳳谷五郎(本名滝田明、横綱在位一場所一九一五年〜一九二〇年)の墓があります。俳優の滝田栄は鳳谷五郎の姪孫にあたります。併

次に、長楽寺から徒歩で五、六分程にある鳥見神社(通称大森鳥見神社)に行きました。東西に長い台地上の西の端に東向きに社殿が建っています。社伝によると、創建は崇徳天皇五年(紀元前九三年)で、その後、大同二年(八〇七年)に再建され、古代物部氏が当地に進出した際、祖神である饒速日命(ニギハヤシノミコト)、宇摩志真知命(ウマシマジノミコト)、御炊屋姫命(ミカシキヤヒメノミコト)を祀つたのが創建の由来とのこと。印西市を中心とする地域には「鳥見神社」が現在も二十



長楽寺の巨大なスダジイ

数社あるとのことですが、その他の地域では殆ど見られないとのこと。本殿の三面の胴羽目にはそれぞれ巴御前、新羅三郎義光及び八幡太郎義家と源氏関係の彫刻があり写実的で素晴らしいものでした。境内には社殿に向かつて左に幹回り三、八五メートルの榎、右に幹回り三、六九メートルの銀杏のご神木があり、社殿奥には三本立ちのタブの木、榎、スダジイ等の巨木が鬱蒼と茂っていました。巨木の観察会を終了し、帰りには、印西市の指定文化財となっている上宿古墳を視察しました。上宿古墳は個人宅の竹林の奥にあり、木下貝層から切り出した石材を積み上げて造つた埋葬施設である横穴式石室が良好な形で残っていました。古墳の全体像は不明ですが、七世紀頃と推定されています。最後に、千葉県の指定文化財である金銅十一面観音が祀られている上町観音堂を及び庚申塔を視察して帰途につきました。



長楽寺の御神木イチョウ

我孫子の巨木・名木を訪ねる会

「樹木観察会報告」第22回筑波実験植物園

実施日・十二月二十一日(金)

佐々木 侑

第二十二回の樹木観察会は、9月に実施を予定したが台風による荒天で中止になった筑波植物園計画を復活したものである。9月に比べるとこの日の樹木は、冬の季節でもあり常緑の樹木を除き、落葉樹は葉を落とし寒々とした姿である。それでも天候は快晴に恵まれ、気温も温かめであった。同行の小島会員よ

り様々な樹木の特徴などについて解り易く説明があり、また室温35度の熱帯雨林温室での植物観察も楽しく実施された。

筑波実験植物園は国立科学博物館の一研究部門であり、植物の研究を行う研究機関。一般向けの教育を提供する機関でもある。1983年(昭和五十八年)十月開園。近年は約五千種の日本国内外の植物を温帯地域から熱帯地域に至るまで世界中から集めている。サバンナ植物の温室としては世界最大規模を誇る。

観察した樹木や植物の内、その一部を写真とともに紹介する。

***プロムナードのメタセコイヤ**
黄葉はメタセコイヤ、常緑はセコイヤ

(写真は筑波実験植物園のホームページより借用)

***暖温帯落葉広葉樹林で見つけたカンアオイ**

日本固有種で、本州の関東地方から近畿地方、四国に分布する。

花期は秋季(一〇—一月)で地面に接して咲く。花のように見えるのは花弁ではなく三枚の萼片である。

別名:カントウカンアオイ、ギフチョウの幼虫の食草としても知られる。

カンアオイは秋から冬に、里山の落ち葉の中でひっそりと開花する。ハート形の大きな葉の根元に、先端が三つに裂けた小さく堅



い筒状の花を咲かせる。常緑性で、花が咲き終わると新しい葉が伸びて古い葉と交代する。
***ジャケツイバラ** (枯れたマメ科果実の残骸が残っていた)



枝がもつれ合うさまからヘビ同士が絡み合っているように見えることから命名された。

高さ1~2mになるつる植物で、茎と葉軸の裏面に鋭く丈夫な逆刺をもち、棘は次第に強く発達する。五~六月にかけて長さ約三十cmにもなる花序が葉の上に屹立するために遠くからでもよく目立つ。花は二十五~三十mm、鮮やかな黄色。

(花の写真は筑波実験植物園のホームページより借用)



漢字は「蛇結茨」であり、

***サイカチの実**(二十cm以上の長い莢がぶら下っている)

サイカチ(阜莢)はマメ科ジャケツイバラ亜科サイカチ属の落葉高木。別名、カワラフジノキ。漢字では阜莢、梶と表記する。

樹齢数百年というような巨木もあり、群馬県吾妻郡中之条町の「市城のサイカチ」や、山梨県北杜市



の「鳥久保のサイカチ」のように県の天然記念物に指定されている木もある。

豆果は阜莢(そうきよう)という生薬で去痰薬、利尿薬として用いる。またサポニンを多く含むため古くから洗剤として使われている。莢(さや)を水につけて手で揉むと、泡が出るので、石鹸の代わりに利用した。アルカリで傷む絹の着物の洗濯などに利用されていた。棘は漢方では皂角刺といい、腫れ物やリウマチに効くとされる。

豆はおはじきなど子供の玩具としても利用される。
***熱帯雨林温室のオオシロシヨウバカマ**(左写真)



***温室の前で(右下写真)**



「文化交流拠点施設建設構想」について意見書
「我孫子市郷土資料センターをつくる会(仮称、五団体)」として次のような意見書を提出した。
① 歴史文化遺産の常設展示場としてのスペースを確保して頂きたい。
② 情報発信専用のスペースを確保して頂きたい。
③ 歴史文化遺産の保存施設を確保して頂きたい。
「独立した郷土歴史資料館を要望していたが、現状かつ今後の状況に鑑み、実現可能性のある「郷土歴史資料室」あるいはそれに代わるスペースの確保をお願いする。

第十四回短歌の会(最終採択の一首)

十二月二十八日実施

謡する友の背筋の真直伸び

人変はりしか声凛として

とにかくも「お前はこうだ」の決めつけを

言はれたくなし今の私は

腰痛に心の晴れぬわれを思ひ

友は散歩に誘ひくれたり

りんだうの濃むらさき愛でし母を思ふ

逝きし日の空抜けるがごとし

思ひとは逆の言葉口にして

人を傷つけ我も傷つく

久々に道を探ねて君訪へば

家に人なく菊咲き盛る

連日の雪に登頂を阻まれ

明日の快晴ひたすらに待つ

すこしずつこころを清め物を棄て

身軽に老いて寒月仰ぐ

じんじんと足先冷ゆる真夜に思ふ

もうすぐ母の命日が来る

昌寺も最後に案内します。
是非ご参加ください。

1. 日時3月31(日)9時、我孫子駅改札口内集合

(小雨決行) 15時頃現地解散予定。

2. コース 吾妻橋一駒形堂一久保田万太郎生誕

の地一清水寺(長谷川一夫菩提寺)一等光寺(土岐善

磨実家、石川啄木歌碑)一源空寺(伊能忠敬、高橋景

時、幡随院長兵衛などの墓)一永昌寺(講道館発祥の

地)など(昼食は外食します)

3. 講師・ガイド 越岡禮子氏(当会副会長)

4. 参加費 会員 無料、非会員 500円

5. 申し込み TEL&FAX(七二八四)二〇四七

越岡まで

楚人冠俳句「序跋詩歌集」より 杉村楚人冠

昭和九年

新年

正月の學者の妻の晴れ着かな

双六や餅と蜜柑と賭けてあり

藪入りのわりなく暮るゝ別れかな

春

瑞垣(たまがき)や椿たわゝに花をたれ

川瀬の魚祭る岸や細月夜

俳優(わざおぎ)の眉や二月の禮者ぶ

今後の行事予定

第133回史跡文学散歩のお知らせ

「西浅草と講道館発祥の地を訪ねる」

日時 3月31(日)9時、我孫子駅改札口内集合

(小雨決行) 15時頃現地解散予定

講師・ガイド 越岡禮子氏(当会副会長)

参加費 会員 無料、非会員 500円

申し込み TEL&FAX(7184)2047 越岡まで

(内容・詳細は上記)

「放談くらぶ」

日時 2月9日(土) 14時〜16時

会場 市民プラザ(アビコンショッピングセンター)

講師 戸田 七支氏(当会役員)

演題 ①嘉納治五郎の我孫子学園構想

②平将門の玉城は我孫子市中里

◎参加費 会員無料 非会員二〇〇円

申込み TEL&FAX(七二八四)六七五 佐々木まで

(講演概要については

3ページ「あびこだより 85号」を参照ください

い)

プロジェクト「巨木クラブ」予定

「樹木観察会」

第23回 1月18日(金)

国立自然教育園・都立林試の森公園

我孫子駅改札(集合) ↓ 我孫子(乗車) ↓ 目

黒駅 ↓ 自然教育園 ↓ 目黒駅 ↓ 東急目黒線武蔵小山

駅 ↓ 林試の森公園 ↓ 武蔵小山駅 ↓ 目黒駅(13時頃解

散) ↓ 我孫子

(各自、飲物・行動食(パン、軽食、お菓子等)をご持

参ください)

プロジェクト「短歌の会」予定

1月22日(火) 13時半〜第十五回短歌の会

けやきプラザ10階小会議室

編集後記 今年の干支は「亥」。「亥」は「イノシシ」、または

「ブタ」の骨格を表す象形文字で骨組みの意味。草木の生命力

が種の中に閉じ込められた状態を表しているといわれる。十二支

では動物の「猪」が割り当てられた▲日本では「猪」は「イノ

シシ」だが、中国では「ブタ」を意味する。中国のカレンダーには

「ブタ」が描かれているし、「西遊記」の猪八戒(ちよはつかい)

も確かにブタだ。中国ではまるまると太ったブタは富の象徴と

され、「大耳有福」という言葉もある。豚のように大きく垂れ

下がった耳を持つ人は「福耳」の持ち主として羨望的だとされ

る▲今年「イノシシ」のように猛々しく進む年(猪突猛進)と

するか、或いは「ブタ」のようにゆっくり進む年(熟慮断行)に